

引用文献

- (1) Boergesen, F. Dansk Botanisk Arkiv, **1** (1913); K. Danske Vidensk. Selsk. Biol. Meddel., **15** (1940) (2) Derbès, A. & A. J. J. Solier, Suppl. aux C. R. Acad. Sci. Paris, **1** (1856) (3) Egerod, L. Univ. Calif. Publ. Bot., **25** (1952) (4) Feldmann, J. C. R. Acad. Sci. Paris, **222** (1946); Ibid, **233** (1951); Rev. Cytol. Biol. Végét., **8** (1952); 8^e Congr. Intern. Bot., sec. **17** (1954) (5) Fritsch, F. E. The structure and reproduction of the algae, **1** (1935); 8^e Congr. Intern. Bot., sec. **17** (1954) (6) Gepp, E. S. Journ. Bot., **42** (1904) (7) Howe, M. A. Bull. Torrey Bot. Club., **34** (1907) (8) Iyengar, M. O. P. Journ. Ind. Bot. Soc., **18** (1940) (9) 神田千代一, 科学南洋, **3** (1940) (10) Kylin, H. Arch. f. Protistenk., **72** (1938) (11) 岡村金太郎, 日本海藻誌, (1936) (12) Oltmanns, F. Morphologie und Biologie der Algen, **1** (1922) (13) Schmitz, F. Sitzber. niederrhein. Gesel. Nat. Heilk., Bonn, (1880) (14) Schussnig, B. Bot. Notiser, (1939) (15) Setchell, W. A. & N. L. Gardner, Univ. Calif. Publ. Bot., **8**, (1920).

○ 矢頭 献一 大和国大台ガ原山の頂上附近にはシラベが生育していない
Ken-ichi YATOH: The Conifers forest of Mt. Ōdaigahara.

大和・伊勢・紀伊の国境に在る大台ガ原山の頂上附近に針葉樹林が見られるが、この森林にシラベ (*Abies Veitchii*) が混生しているという報告が岡本氏¹⁾・小泉源一先生²⁾ 其他の方々によつてなされ、筆者も小泉先生に伺つてその様に思つていたことがあつた。

しかし紀伊半島でシラベの見られる山地は大峰山系の海拔 1,800 m 以上の弥山の南のみで、それより高度の低い台高山系 (最高は大台ガ原の海拔 1,695 m) にもこれが見られるというのはどうも疑わしいので、其後機会のある度に大台ガ原山頂の針葉樹林の構成樹種を精密に調べてきた。特に 1954 年、1955 年には頂上附近の針葉樹林で未踏査の部分为数回飛行機を利用してその位置を確かめ、更に現地でも毎木調査を行い、できる限りの個体について樹種の調査を行つたが、ついに 1 本のシラベをも見つけなかつた。

又、岡本氏の採集品の収められていると思われる奈良女子大の腊葉庫や、小泉先生の標本のある京大の腊葉庫も見せて頂いたが大台ガ原産のシラベの標本を見ることはできなかつた。

以上の様な次第でここに大台ガ原山頂上附近の針葉樹林内にシラベの無いことを一応確認したものとして報告したい。尙、現在までにこの地区で確実に生育を認めた針葉樹は次の 7 種である、量の多い順に書けばウラジロモミ (*Abies homolepis*)、トウヒ (*Picea jezoensis* var. *hondoensis*)、コマツガ (*Truga diversifolia*)、ハリモミ (*Picea polita*)、ゴヨウマツ (*Pinus pentaphylla* var. *Himekomatsu*)、ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*)、イチイ (*Taxus cuspidata*) である。(三重大学農学部森林植物学教室)

- (1) 岡本勇治: 大台ガ原山 p. 27 (1923)
(2) 植物分類・地理, **3**: 163-165 (1934)